

『社会とつながる行政法入門』

(R.K.・20代・法曹)

行政法を学び始めた段階では、教科書は抽象的な概念の説明が多い、判例の事例はなじみが薄いもので把握するのが難しいと思う人がほとんどではないでしょうか。私もそうでした。本書は第1章でライフサイクルと行政法の一通りを説明した後、各章において身近な具体的事案に沿って行政法の基本的なキーワードを学べるようになっており、行政法特有のどっつきにくさを感じません。また、行政法全体の内容が約170頁にまとまっています。そのため、教科書を本格的に読み始める前に行政法に対するイメージを掴むには最適な書籍です。

さらに、各テーマに関する統計やポスターも掲載されており、行政法だけでなく社会の現代的課題についても把握できるようになっています。社会問題と行政法の相互理解にも役立つ1冊だと思います。

本書には行政法のキーワードについて判例を基礎にした正確な定義・規範はほとんど記載されていないので、いわゆる試験勉強に直結するものではありません。しかし、キーワードを具体的事案と結び付けて理解できることからすると、教科書・判例を読み終えた人にも個別法の解釈を要する事例問題を解く前にもう一度本書を読むことをおすすめします。

『法学教室』2018年2月号(No.449)掲載「Reader's Voice」より